

前橋市における鳥獣害対策の取り組みについて

1 有害鳥獣全般

(1) 被害状況

本市における農作物被害の状況は、ここ数年若干ではあるが減少傾向を示している。一方で、住宅地等ではクマやイノシシなどの大型獣の出没に危機感を募らせている。

加えて、アライグマやハクビシンといった中型獣による生活環境被害も増えている状況にある。特に、アライグマの捕獲数は右肩上がりに増え続けている。

農作物被害の特徴としては、大型獣による水稲や芋類などに加え、ハクビシンなどによる果樹や野菜の被害も目立っている。

(2) 被害対策

直接的には、有害捕獲が即効性を伴い効果的であるが、農業者が自ら守る姿勢を後押しすることも重要であることから、電気柵の設置補助金として群馬県補助を活用し本年度も実施した。併せて生息環境整備の一環として、出没抑制効果を期待できる緩衝帯の設置を昨年に続き実施した。

2 CSF（豚コレラ）関連イノシシ対策

昨年10月の県内イノシシの豚コレラ感染を受け、捕獲強化などの群馬県の対策を踏まえ、本市では11月15日から3月31日までに捕獲したイノシシに対して、有害鳥獣捕獲補助金として国、県の交付金等に加え1頭当たり20,000円を支給している。

また、群馬県の単独補助金を活用して、イノシシを捕獲した場合の個体処分のうち埋却処分に対して、猟友会が処分地を確保する場合、その掘削費用を負担した。併せて、住宅地付近での箱わなを利用した捕獲個体を止め刺しする場合、銃の使用環境が許されない場合の止め刺し方法として、電気止め刺し器の使用頻度が多くなることから、これを購入し猟友会に貸出すことにより、有効活用を図っている。

さらに、市の単独事業として、ICT捕獲補助機材を購入運用し、捕獲用のくくりわなにセンサーを取り付け（11基）捕獲情報を受信することで、毎日の見回りが不要となり、捕獲従事者（猟友会）の負担軽減が図られている。

3 今後の取り組み等

有害捕獲に偏った対策は出口の見えないエンドレスな状況であるため、出没対策や守る対策を複合的に実施することがより効果的である考える。

特に、出没対策の中でも有害鳥獣を出没させない取り組みとして、本来の生息地である森林の環境整備が重要と考える。

今後において、これまで手がつけられなかったような森林の荒廃した状況に対して、森林環境譲与税を有効活用した森林再生がどこまで可能か、検討を重ねていきたい。

4 有害鳥獣等捕獲数（地区別）

H29年度捕獲数

- ・アライグマ 31頭〔旧前橋16. 芳賀7. 粕川5. 富士見3.〕
- ・ハクビシン 55頭〔旧前橋28 芳賀5 大胡9 宮城2 粕川5 富士見6〕
- ・イノシシ 123頭〔芳賀12. 大胡5. 宮城60. 粕川6. 富士見40〕
- ・ニホンジカ 153頭〔芳賀10. 大胡3. 宮城81. 粕川1. 富士見58〕
- ・ツキノワグマ 5頭〔宮城4. 富士見1〕

H30年度捕獲数

- ・アライグマ 79頭〔旧前橋33 芳賀18 宮城9 粕川3 富士見16〕
- ・ハクビシン 43頭〔旧前24 芳賀7 大胡6 宮城2 粕川3 富士見1〕
- ・イノシシ 204頭〔芳賀18 大胡13 宮城113 粕川22 富士見38〕
- ・ニホンジカ 141頭〔芳賀5 大胡1 宮城77 粕川2 富士見56〕
- ・ツキノワグマ 4頭〔宮城2 富士見2〕

R元年度捕獲数〔R元. 12. 31日まで〕

- ・アライグマ 130頭〔旧前橋56 芳賀21 大胡12 宮城11 粕川16 富士見14〕
- ・ハクビシン 42頭〔旧前橋15 芳賀3 大胡8 宮城5 粕川7 富士見4〕
- ・イノシシ 167頭〔旧前橋1 芳賀10 大胡5 宮城60 粕川48 富士見43〕
- ・ニホンジカ 126頭〔芳賀9 宮城56 粕川8 富士見53〕
- ・ツキノワグマ 8頭〔宮城5 富士見2 粕川1〕

※・豚コレ関連イノシシ 144頭〔芳賀7 大胡3 宮城15 粕川10 富士見109〕
(R1.11.15~R2.1末)

《参考 狩猟期捕獲数》

H29年度捕獲数 イノシシ 221頭、ニホンジカ 236頭
H30年度捕獲数 イノシシ 149頭、ニホンジカ 195頭
R1年度捕獲数 イノシシ 16頭 ニホンジカ 23頭
(令和2年2月3日現在)

有害鳥獣対策に係る緩衝帯の整備状況

